

## (2) 「保護林」など優れた自然環境を有する森林の維持・保存

### ① 「保護林」の設定及び保全・管理の推進

国有林野には、世界自然遺産として登録されている屋久島、白神山地、知床、小笠原諸島をはじめとして原生的な森林生態系や希少な野生生物が生育・生息する森林が多く残されています。

国有林野事業では、大正4年に保護林制度を発足させ、こうした貴重な森林を「保護林」に設定し、その保全・管理に努めてきました。

平成24年度には、北海道上川郡新得町において「十勝川上流森林生物遺伝資源保存林」を新たに設定しました。また、福島県郡山市において既設の「深沢ヒノキアスナロ植物群落保護林」を拡張するなど、16箇所において「保護林」を設定・変更しました。この結果、「保護林」面積は約5万ha増加し、96万5千haとなりました。

「保護林」設定後は、設定状況を客観的に把握するため、定期的に森林や動物等の状況変化をモニタリング調査し、その結果を植生の保全・管理や区域の見直し等に役立てています。

また、これらの「保護林」の適切な保全・管理の一環として、植生の回復やシカ等による食害を防ぐための保護柵の設置、地域の関係者等との利用ルールの確立とその内容の普及も進めています。

表－１０ 平成24年度に新たに設定又は変更した保護林の概要

	名 称〔所在地〕	面積 (ha)	概 要
設 定	日高山脈西部森林生物遺伝資源保存林 〔北海道沙流郡日高町ほか〕	15,361 (15,361)	日高山脈の原生的な自然環境における森林生態系を構成する生物全般の遺伝資源を保存する。
	日高山脈東部森林生物遺伝資源保存林 〔北海道広尾郡広尾町ほか〕	8,728 (8,728)	日高山脈の原生的な自然環境における森林生態系を構成する生物全般の遺伝資源を保存する。
	十勝川上流森林生物遺伝資源保存林 〔北海道上川郡新得町〕	16,303 (16,303)	大雪山系の原生的な自然環境における森林生態系を構成する生物全般の遺伝資源を保存する。
	橋野鉄鉱山郷土の森 〔岩手県釜石市〕	463 (463)	産業遺産や景観を保全するため森林を保存する。
	八幡岳周辺冷温帯ブナ・ミズナラ植物群落保護林 〔福島県須賀川市〕	219 (219)	ブナ・ミズナラ等の植物群落を保護する。
	甲子・二岐周辺冷温帯ブナ植物群落保護林 〔福島県岩瀬郡天栄村〕	3,087 (3,087)	ブナの植物群落を保護する。
	剣山植物群落保護林 〔徳島県三好市〕	446 (446)	シロクシラベ・コメツガ・ウラジロモミ群落等の植物群落を保護する。
	佐喜浜躍動天然杉郷土の森 〔高知県室戸市〕	18 (18)	天然杉の群生を保護する。
	奄美群島森林生態系保護地域 〔鹿児島県奄美市ほか〕	4,820 (4,820)	奄美群島の原生的な森林生態系を保護する。
	奄美群島特定動物生息地保護林 〔鹿児島県奄美市〕	1,334 (1,334)	奄美群島における希少種や固有種の生息地・繁殖地を保護する。
変 更	洞河原植物群落保護林 〔鹿児島県肝属郡南大隅町〕	21 (21)	タブノキ等の植物群落を保護する。
	男鹿山スギ植物群落保護林 〔秋田県男鹿市〕	60 (32)	天然秋田スギを保護する。
	深沢ヒノキアスナロ植物群落保護林 〔福島県郡山市〕	175 (131)	ヒノキアスナロの植物群落を保護する。
	黒河山林木遺伝資源保存林 〔福井県敦賀市〕	93 (12)	スギ・ブナ・ミズナラ・イヌシデの遺伝資源を保存する。
	大悲山モミ植物群落保護林 〔京都府京都市〕	10 (6)	京都市北部地方の自然植生を代表するモミを主体とした高齢級天然林を保護する。
	鎗戸植物群落保護林 〔徳島県那賀郡那賀町〕	25 (3)	シロクシラベ・コメツガ・ウラジロモミ等の植物群落を保護する。
	合計 16箇所	51,164 (50,983)	

注：1 ( ) 書は、保護林の面積のうち、平成24年度に設定又は変更した面積である。

2 計の不一致は、四捨五入による。

表－１１ 保護林の現況

(単位：箇所、千ha)

保護林の種類	目的	箇所数	面積
森林生態系保護地域	森林生態系の保存、野生動植物の保護、生物遺伝資源の保存	30	655
森林生物遺伝資源保存林	森林生態系を構成する生物全般の遺伝資源の保存	15	75
林木遺伝資源保存林	林業樹種と希少樹種の遺伝資源の保存	320	9
植物群落保護林	希少な高山植物、学術上価値の高い樹木群等の保存	372	161
特定動物生息地保護林	希少化している野生動物とその生息地・繁殖地の保護	39	23
特定地理等保護林	岩石の浸食や節理、温泉噴出物、氷河跡地の特殊な地形・地質の保護	33	37
郷土の森	地域の自然・文化のシンボルとしての森林の保存	40	4
合計		849	965

注：１ 平成25年4月1日現在の数値である。

２ 計の不一致は、四捨五入による。

### 事例 森林生物遺伝資源保存林の新設

北海道森林管理局では、森林生態系保護地域や緑の回廊を設定し、大雪・日高地域の森林生態系の一体的な保全・管理に取り組んでいます。

大雪・日高地域には、既設の森林生態系保護地域以外にも、希少な野生生物の生育・生息に適した森林が存在しています。

北海道森林管理局では、希少な野生生物の生育・生息状況の現地調査や学識経験者の意見等を踏まえ、平成24年度に新たに3箇所（合計約4万ha）の森林生物遺伝資源保存林を設定しました。

今後は、森林生態系保護地域等と一体的に、モニタリング調査等を通じた適切な保全・管理に取り組むこととしています。

（北海道森林管理局）



場 所：北海道かみかわ上川郡しんとく新得町 新得国有林ほか  
場 説 明：写真は、新たに設定されたものの1つ「十勝川上流森林生物遺伝資源保存林」の様子です。

## ② 「緑の回廊」の整備の推進

国有林野事業では、野生生物の生育・生息地を結ぶ移動経路を確保することにより、個体群<sup>注)</sup>の交流を促進して、種の保全や遺伝的な多様性を確保するため、「保護林」(61ページ参照)を中心にネットワークを形成する「緑の回廊」を設定しています。

「緑の回廊」においては、人工林の中に自然に生えた広葉樹を積極的に保残するなど、野生生物の生育・生息環境に配慮した施策を行っています。また、森林の状態と野生生物の生育・生息実態の関係を把握して保全・管理に反映するためのモニタリング調査を実施しています。

国有林だけでは「緑の回廊」としての幅や連続性が確保できない場合などは、必要に応じて隣接する民有林へも協力を依頼しながら、「緑の回廊」の充実に努めています。

### 事例 「緑の回廊」における野生生物のモニタリング調査

中部森林管理局では、管内に4つの「緑の回廊」を設定し、野生生物の移動経路を確保することで、ツキノワグマをはじめとした中部地方に生育・生息する野生生物の保護・保全に取り組んでいます。

平成24年度には、各緑の回廊において、森林内を24時間撮影できるセンサーカメラなどを用いて動物の生息状況を調査し、ブナ・ナラ類の種子豊凶状況と合わせて分析を行いました。

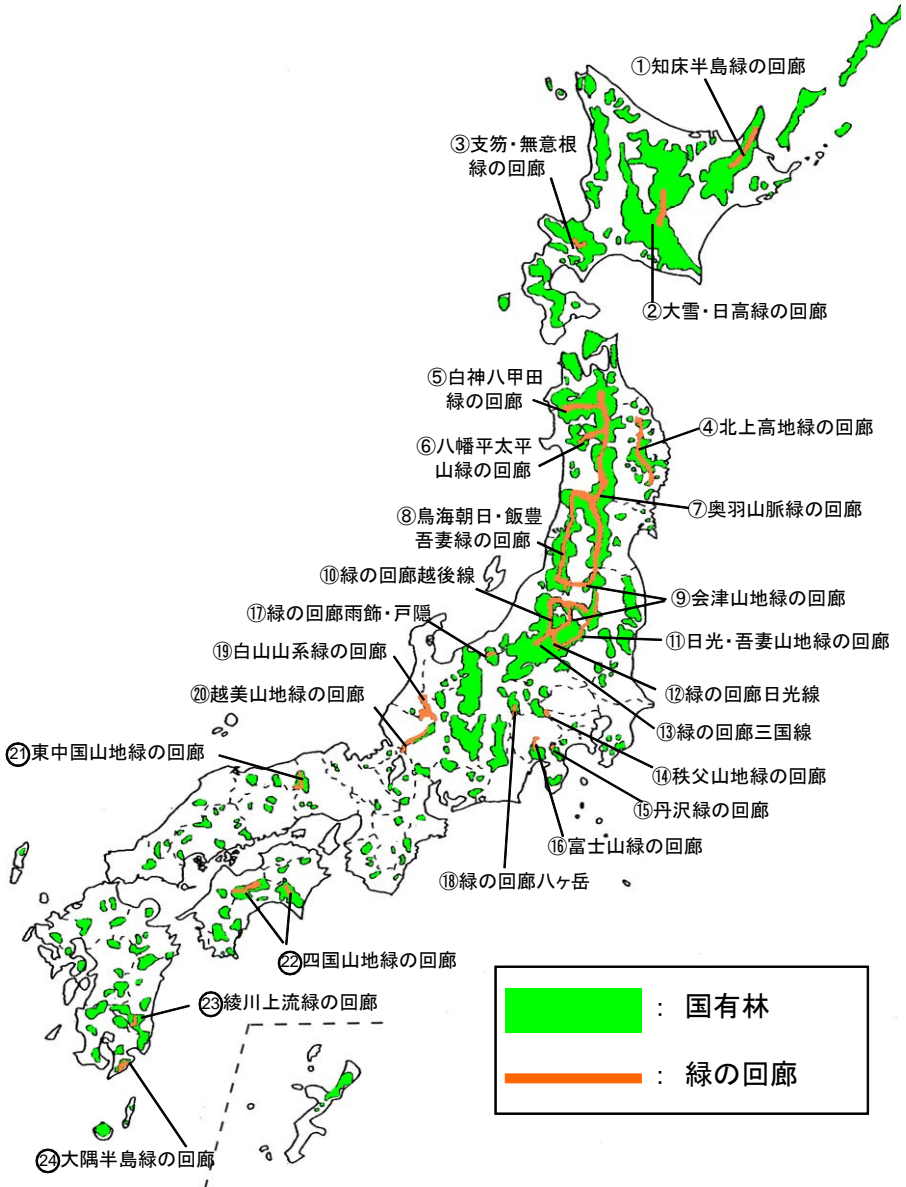
今後は、こうした分析結果等を踏まえ、緑の回廊内の森林管理に取り組むこととしています。

(中部森林管理局 飛騨森林管理署ほか)



場 所：岐阜県高山市 たかやま 尾上郷国有林ほか おがみこう  
説 明：写真は、モニタリング調査用カメラ（上）と、撮影されたツキノワグマの様子（下）です。

図一 2 「緑の回廊」位置図（平成25年4月1日現在）



表－12 「緑の回廊」の現況

	名 称	面積 (千ha)	延長 (km)	場 所 等
1	知床半島緑の回廊	12	36	北海道斜里郡斜里町、目梨郡羅臼町ほか
2	大雪・日高緑の回廊	17	57	北海道空知郡南富良野町、上川郡新得町
3	支笏・無意根緑の回廊	7	30	北海道札幌市、虻田郡京極町ほか
4	北上高地緑の回廊	27	150	岩手県久慈市、大船渡市ほか
5	百神八甲田緑の回廊	22	50	青森県中津軽郡西目屋村、秋田県大館市ほか
6	八幡平太平洋緑の回廊	11	60	秋田県秋田市、仙北市、北秋田市、鹿角市
7	奥羽山脈緑の回廊	73	400	青森県平川市、秋田県仙北市、山形県最上郡金山町ほか
8	鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊	58	260	秋田県湯沢市、山形県米沢市、福島県福島市ほか
9	会津山地緑の回廊	105	100	福島県大沼郡昭和村ほか
10	緑の回廊越後線	16	70	新潟県魚沼市ほか
11	日光・吾妻山地緑の回廊	94	180	福島県岩瀬郡天栄村、栃木県日光市ほか
12	緑の回廊日光線	11	38	栃木県日光市ほか
13	緑の回廊三国線	13	52	群馬県利根郡みなかみ町、新潟県南魚沼郡湯沢町ほか
14	秩父山地緑の回廊	6	44	埼玉県秩父市
15	丹沢緑の回廊	4	43	神奈川県足柄上郡 山北町ほか
16	富士山緑の回廊	2	24	静岡県富士宮市ほか
17	緑の回廊雨飾・戸隠	4	17	長野県北安曇郡小谷村、長野市
18	緑の回廊八ヶ岳	6	21	長野県茅野市ほか
19	白山山系緑の回廊	43	70	富山県南砺市、岐阜県大野郡白川村、石川県金沢市、福井県大野市ほか
20	越美山地緑の回廊	24	66	福井県南条郡 南越前町、大野市、滋賀県長浜市、岐阜県本巣市、揖斐郡揖斐川町ほか
21	東中国山地緑の回廊	6	42	兵庫県美方郡新温泉町、鳥取県鳥取市ほか
22	四国山地緑の回廊	18	128	石鎚山地区（愛媛県、高知県）及び剣山地区（高知県、徳島県）
23	綾川上流緑の回廊	2	5	宮崎県東諸県郡 綾町、国富町、小林市
24	大隅半島緑の回廊	1	22	鹿児島県肝属郡肝付町、錦江町ほか
合 計 24箇所		583		

注：1 面積、延長、場所等は、平成25年4月1日現在のデータである。

2 国有林「緑の回廊」の面積を記載。

3 計の不一致は、四捨五入による。



### ③ 野生生物の保護管理の推進

国有林野事業では、国有林野内に生育・生息する希少な野生生物の保護管理を進めるため、生育・生息状況の把握や生育・生息環境の維持、整備等を進めています。

平成24年度には、ミヤジマトンボ（絶滅危惧種）やレブンアツモリソウ（絶滅危惧種）等の希少な野生生物の保護活動を関係機関と連携して実施しました。

### 事例 ミヤジマトンボの保護の取組

広島森林管理署では、広島県の宮島にのみ生息するミヤジマトンボ(絶滅危惧種)の繁殖地、生息地等の保護活動に取り組んでいます。

平成24年度は、生息状況や森林を含む生息環境の調査を行いました。調査結果については、関係行政機関や研究機関等で構成されているミヤジマトンボ保護管理連絡協議会に報告するなど、関係機関とも連携を図りながら、保護に取り組んでいます。

今後は、繁殖地や生息地の保護のため、調査結果等を踏まえた保護林の設定に向けた検討を進めて行くこととしています。

(近畿中国森林管理局 広島森林管理署)



場 所：広島県廿日市市 はつ か いち 宮島国有林 みやじま  
説 明：写真は、流量調査の様子（上）と、ミヤジマトンボの様子（下）です。

## 事例 レブンアツモリソウの保護の取組

宗谷森林管理署では、北海道礼文郡礼文町れぶん れぶんちょうのみに自生するレブンアツモリソウ（絶滅危惧種）の保護活動に取り組んでいます。

レブンアツモリソウは、近年、個体群の衰退が指摘されていることから、自生地復元の検討のため、現存する生育地の分布や個体数の把握が必要となっています。

直接踏査による調査では調査時の踏み付けによる生育環境の損傷が懸念されることから、平成24年度には、ラジコンヘリを用いた高解像度の空中写真判読による個体数調査を実施しました。

（北海道森林管理局 宗谷森林管理署）



場 所：北海道礼文郡礼文町 礼文国有林  
説 明：写真は、ラジコンヘリを使った生育調査の様子（上）と、レブンアツモリソウの開花の様子（下）です。

**事例 ゴイシツバメシジミとシシンランの保護の取組**

熊本南部森林管理署では、熊本県の山中のみに生息するゴイシツバメシジミ（絶滅危惧種）の保護活動に取り組んでいます。

また、ゴイシツバメシジミの食草であり、苔の生えた樹幹に着生するシシンラン（絶滅危惧種）が減少し生息環境が悪化していることから、シシンランに関する保護・増殖活動にも取り組んでいます。

平成24年度は、シシンランの挿し木繁殖手法等の検討やシシンランの立木への移植を実施しました。

（九州森林管理局 熊本南部森林管理署ほか）



場 所：熊本県内 国有林

説 明：写真は、移植されたシシンラン（左）と、ゴイシツバメシジミの様子（右）です。

#### ④ 地域やNPO等との連携による保護活動の推進

地域住民や環境保護に関心が高いNPO等の皆さんと協力しながら国有林野内における希少な野生生物の保護管理や自然環境の保全を進めていくため、高山植物の盗採掘の防止や希少な野生生物の生育・生息環境の保全のための巡視を委嘱するとともに、意見交換等を行っています。

事例 地元自治体と連携した「佐喜浜天然杉」保護の取組

高知県室戸市にある段ノ谷山には、天然杉の巨木がまとまって生育するなど特色のある天然林が分布しています。

安芸森林管理署では、この貴重な天然林を郷土の宝として保護していくため、平成24年度に室戸市と保存協定を締結し、「佐喜浜躍動天然杉郷土の森」を設定しました。

今後は、地元小中学生などの学習・観察等の場としても活用し、地域と連携を深めた保全・管理に取り組むこととしています。

(四国森林管理局 安芸森林管理署)



場 所：高知県室戸市 段ノ谷山国有林  
説 明：写真は、協定調印式の様子（上）と、天然杉の様子（下）です。

## ⑤ 環境行政との連携

国有林野の優れた自然環境を保全管理するため、希少な野生生物の保護管理（69ページ参照）や「自然再生事業」の実施及び「生態系維持回復事業計画<sup>注）</sup>」の策定に向けて、環境省や都道府県の環境行政関係者との連絡調整や意見交換を行い、関係機関と連携して取組を進めています。

また、森林管理局が主催する森林生態系保護地域設定委員会等の各種検討会に環境行政関係者の参加を求めるとともに、「地域管理経営計画」等の策定に先立つ連絡調整も行っています。

表－13 環境行政関係者との連絡会議の開催事例

名 称	森林管理局	環境行政関係	主な内容
北海道地方連絡会議	北海道	北海道地方環境事務所 ほか	希少野生動物植物保護・増殖の取組、国立公園の保全整備、生態系維持回復事業の共同策定、特定外来生物対策の実施、知床世界自然遺産地域の保護管理等についての情報・意見の交換
東北地方連絡会議	東 北	東北地方環境事務所	東日本大震災に係る海岸防災林復旧、保護林モニタリング調査、国立公園や世界自然遺産の保護管理等についての情報・意見の交換
関東地方連絡会議	関 東	東北地方環境事務所 関東地方環境事務所 ほか	保護林の設定・拡充、景勝地の高齢級人工林の取扱い、尾瀬等のシカ対策の推進等についての情報・意見の交換
中部地方連絡会議	中 部	関東地方環境事務所 中部地方環境事務所 ほか	野生鳥獣及び高山植物等の保護対策、国立公園計画、国立公園内の施設整備、生態系維持回復事業の共同策定等についての情報・意見の交換
近畿中国、四国地方連絡会議	近畿中国 四 国	中部地方環境事務所 近畿地方環境事務所 中国四国地方環境事務所	地域管理経営計画等に関する自然公園関係の協議、生態系維持回復事業の実施、グリーンワーカー事業、大台ヶ原自然再生推進モデル事業等についての情報・意見の交換
九州地方連絡会議	九 州	九州地方環境事務所	保護林の現状、森林生態系保護地域での事業実施、世界自然遺産保全対策の実施、国立公園計画、国立公園内での事業実施、生態系維持回復事業の共同策定等についての情報・意見の交換

事例 関係機関と連携した稚咲内砂丘林自然再生事業の取組

北海道北部の豊富町とよとみと幌延町ほろのべにかけて広がる稚咲内砂丘林は、砂丘列間に大小様々な100個以上の湖沼が存在し、独特の生態系を形成していますが、砂丘林内のトドマツに立ち枯れが生じており、隣接する湖沼では水位低下が懸念されています。

北海道森林管理局では、「上サロベツ自然再生協議会」の一員として、環境省をはじめとする関係行政機関や市民団体、地域住民などと連携して稚咲内砂丘林の自然再生事業に取り組んでいます。

平成24年度は、「稚咲内砂丘林自然再生事業実施計画」を策定し、植栽や湖沼に雪を溜めるための堆雪柵たいせつさくの設置に向けた現地調査、湖沼群のモニタリング調査を実施しました。

今後も、実施計画に基づき植栽等を実施するとともに、モニタリング調査を継続していくこととしています。

(北海道森林管理局)



場 所：北海道てしお天塩郡豊富町、幌延町 稚咲内国有林  
 説 明：写真は、稚咲内国有林（左）（写真提供：岡田操氏）と、モニタリング調査の様子（右）です。





「黄金色に輝く」(カラマツ黄葉写真コンテスト・局長賞)(中部森林管理局)

### 3 国有林野の林産物の供給

### 3 国有林野の林産物の供給

#### (1) 計画的な収穫の実施

国有林野事業では、木材等の林産物について、公益的機能の維持増進を旨とする管理経営を進めることを基本として、自然環境の保全等にも十分な配慮を行いながら、持続的・計画的な供給に努めています。平成24年度には、762万 $m^3$ の木材を収穫しました。

特に、現在、地球温暖化防止のための森林吸収源対策として、間伐等の森林整備を積極的に進めており、木材の有効利用の観点から、この森林整備の結果として得られる間伐材等の搬出・供給に取り組んでいます。

また、多様な森林を有しているという国有林野の特性を活かし、民有林から供給が期待しにくい樹種等の計画的な供給にも取り組んでいます。

表－14 収穫の実施状況

(単位：万 $m^3$ )

区 分	平成24年度	(参考)平成23年度
主 伐	158	154
間 伐	604	615
合 計	762	769

表－15 民有林からの供給が期待しにくい樹種の素材(丸太)供給実績

(単位：万 $m^3$ )

樹 種 名	平成24年度	(参考)平成23年度
ヒ バ	1.3	1.2
木曾ヒノキ	0.2	0.1
天然秋田杉	0.1	0.1

**事例 公共建築物への天然秋田スギの供給**

秋田県では、秋田空港の出発ロビーの改修にあたり、木材利用のPR等のため、秋田県の特産樹種である天然秋田スギを使用することとしました。

秋田森林管理署では、秋田県等の要望を受け、管内国有林から天然秋田スギ丸太（長さ4m、太さ78cm）1本を供給しました。

（東北森林管理局 秋田森林管理署）



場 所：秋田県秋田市

説 明：写真は、伐採された天然秋田スギ（上）と、秋田空港の出発ロビーに設置された天然秋田スギの様子（下）です。

## (2) 林産物等の販売

平成24年度の木材販売量は、立木販売<sup>注)</sup>については11万m<sup>3</sup>減少して47万m<sup>3</sup>に、素材(丸太)販売<sup>注)</sup>については23万m<sup>3</sup>増加して236万m<sup>3</sup>となりました。

販売に当たっては、積極的に推進される間伐に伴い生産された間伐材等について、国産材需要拡大や加工・流通の合理化等に取り組む集成材<sup>注)</sup>・合板<sup>注)</sup>工場や製材工場等と協定を締結し、それに基づいて国有林材を安定的に供給する「システム販売」を推進し、平成24年度の素材販売(システム販売)については、17万m<sup>3</sup>増加して111万m<sup>3</sup>となりました。

さらに、このような国有林材の安定供給により、エネルギー利用等の新たな需要の開拓にも取り組んでいます。

このほか、インターネット等を活用し、迅速かつ広範囲に公売情報を提供したり、民間市場への素材販売の委託を行うなど樹材種の特質に応じた有利な販売や販路の拡大に努めました。

表-16 素材販売量と「システム販売」による販売量

(単位：万 m<sup>3</sup>)

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
素材販売量	180	204	198	213	236
うち システム 販売量	64 (36%)	73 (36%)	88 (44%)	94 (44%)	111 (47%)

注：( )書は、全体に占めるシステム販売の割合(%)である。

### 事例 「システム販売」による小径木の需要拡大に向けた取組

間伐等の森林整備に伴い搬出される木材の中には、建築用に向かない小径木が含まれており、資源の有効活用の観点からこうした木材の需要拡大が課題となっています。

東信森林管理署及び木曽森林管理署では、「システム販売」により、まとまった量のカラマツ小径木を安定供給しており、このことを通じて、需要者は、顧客のニーズに応じ、1 cm単位でのより細かい選別を行うことが可能となり、販路の拡大につながっています。

(中部森林管理局 東信森林管理署、木曽森林管理署)



場 所：長野県小諸市<sup>こもろ</sup>  
説 明：写真は、カラマツ小径材の加工される前の様子（上）と、土木用材として加工された後の様子（下）です。

**事例 薪の利活用促進に向けた取組**

東日本大震災を契機に、エネルギー需給のあり方に対する国民の関心が高まっており、再生可能エネルギー源の一つである「薪」についても、利活用の促進が課題となっています。

中部森林管理局では、身近なエネルギー源である薪の利活用の促進に向けて、長野県と連携し、「薪談義」と称して、薪問屋、薪ストーブ業者、素材生産業者等による意見交換を実施しました。

当日は、約60名の関係者が参加し、需要側と供給側の結びつきをどう図るかが課題などの意見が出されました。

中部森林管理局では、こうした取組を継続し、薪の需要拡大を図ることとしています。

(中部森林管理局)



場 所：長野県塩尻市ほか

説 明：写真は、「薪談義」の会場の様子（上）と、乾燥させている薪の様子（下）です。





フォワーダへの木材の積み込み作業（九州森林管理局）